

2015 年度報 街中ゆったりカフェ

■ 目次

- 1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 各回開催記録・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3. 寄稿、美術作品・・・・・・・・・・・・ 3
- 4. おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 end=7



会場風景

1. はじめに

皆様方が皆様方各自の分野でご活躍をされておられること、まずは喜び申し上げます。

さて、本会がスタートして早や三年たちました。この間、毎月のいろいろな語りで皆さんとの楽しみを積み重ねており、その意味では充実した三年と言えます。これもひとえに参加された皆様方我支えていただいたおかげであり、ここに厚く御礼申し上げます。

今年度の活動のしめくくりとして、毎回の定例会や特別企画について、まとめ集として報告集を作り、これを会報といたします。会報からは、皆さんの声が聞こえてくるかと存じます。見ていただければ幸いです。なお、会の詳細は、HPを見てください。

<http://buna.html.xdomain.jp/cafe.html>

または「街中ゆったりカフェ」で検索下さい。

2. 15 年度活動記録

場所は主に音杉公民館にて。

第1回 4月22日(水) 13:30-15:30

町民学園講演会の参加で代用。

上市町保健福祉総合センタ

演題 「大伴家持が越中で見たもの」～家

第2回 5月27日(水) 12:00～15:00 8人参加



大岩奥の散策；大岩ソーメン・山菜料理堪能(上写真)、
花の家にてアニメの古民家堪能、
城ヶ平山にて森林浴、(下写真)

第3回 6月24日(水) 13:30～15:00

話題：参加者各自もちより；黒部川紹介、
竹内文書、石仏

第4回 7月22日(水) 13:30～15:00

話題：「立山開山、佐伯有頼について」

第5回 8月26日(水) 13:30～15:00 10人参加

話題：「邦楽、尺八の魅力について」

第6回 9月30日(水) 13:30～15:00

話題：立山信仰、立山案内

第7回 10月28日(水) 13:30～15:00

上市種地区の山と滝、種集落の維持、
音杉の歴史(上市川・白岩川)、

中島閘門、水博物館、滑川宿の伝統建物群

第8回 11月25日(火) 13:30~15:00
出席者からの話題(蕎麦うち、他)もちより

第9回 12月24日(木) 13:30~15:00
富山の土砂災害、喫煙の弊害、漢字解説

第10回 1月27日(水) 13:30~15:00 8人参加
蕎麦概論；蕎麦の起源から味わい方まで。
また町おこしの話も。

第11回 2月24日(水) 13:30~15:30
上市町保健福祉総合センター研修室にて

町民学園閉校式の記念講演会出席で代用
講演会：武者の覚え

——戦国越中の覇者・佐々成政——

講師：富山市郷土博物館、萩原大輔氏

第12回定 3月23日(火) 13:30~15:00
各自話題もちより

3. 寄稿、美術作品

3.1 女性たちは、命や平和を守ろうと身体の底から声を上げる

シャキット 149号p1

Y a 著

8月30日、戦争法（安保法）案に反対する12万人行動でも流れは変わらなかった。戦後70年が、戦争前夜になってはたまたません。9月6日、新宿でのシールズ街宣に参加しました。「民主主義ってなんだ。これだ」に感動。富山でも叫んでみました。

いよいよ法案の採決が近くなり、居ても立っても居られず、9月14日から3日間国会前行動に参加しました。近くにいた女性たちに声をかけると、平和の危機に黙っていられず、この夏初めてデモに参加したという人たちがばかりです。地元では戦争法の話などできないけど、ここへ来たら思う存分話せるから何度も来ているという。単独参加者ばかりで話が弾みます。オバサンたちは逞しい。連絡先を交換して翌日もまた集まりました。10月にも再会し、川内原発再稼働に抗議の声をあげました。

生命にかかわることには、女性は敏感です。世論調査でも戦争法や原発に反対の割合が男性よりかなり高い。上智大教授の中野晃一さんが、安保法案反対運動の過程の中で、女性たちの発言について語っていたのが興味深かったです。つまり、運動の前半は立憲主義や民主主義を守れとの声の主でしたが、「ママの会」や札幌の女子などの登場で、「誰の子どもも殺させない」「戦争したくなくて震える」など、平和主義の言葉が自然と出てきたといえます。

参議院本会議で神本議員が、「総理が野次をとばした相手は、全て女性議員だ。女性の意見は聞くに値しな

いと考えている」と述べていました。女性活躍を謳っていても女性蔑視の本音が透けて見えます。官房長官の「結婚して子どもを産んで国家に貢献してほしい」発言も同根ではないでしょうか。富国強兵政策など時代錯誤も甚だしいと思います。

シングルマザーや子どもの貧困、派遣等非正規労働者、毎日生きることに精一杯の人びとの問題を解決することが、何よりも最優先されるべきだと思います。

ドイツの学者によると、女性の政治はソフトな政策が中心で、中核にある価値は、「生活、生命、人生」だとのことです。それには女性議員を増やすことが重要です。まずは女性のエンパワーメントを図るネットワークづくりから始めたらよいと考えます。

10月に入り、一昨年官邸前で出会った女性とじっくり話をすることができました。東京在住の彼女は、入手可能な資料をたくさん送ってくれます。原発震災後、地方で情報を入手しにくい人にも活動を広めてほしいとの思いで、個人的に始めたとのことです。都内では、彼女から情報を得た女性たちが小さな勉強会を開いたり、集会に参加したりするなど、少しずつ成果が出てきているそうです。

私も彼女のように命と平和を大切にする政治を求め、少しでも周囲に働きかけていきたいと思っています。

陸つづきの宝来島

文山 純子

有峰ダム側から見る宝来島は、有峰湖に見える小さい島です。

平成27年秋、その宝来島が陸つづきになっていました。私は初めて見る風景で、なぜかうれしかったです。高齢な人が多い団体で見ました。この宝来島は、百年ほど前に有峰村が電源開発のために湖底に沈む前には、吉事山と言われていたと、大山歴史民俗資料館の人が説明していました。だれともなく、この陸つづきの宝来島は、この次は見る事が出来ないかもしれない、と言われました。その宝来島へ勇んで行きました。



右手の林が宝来島。その背後、遠くが冠雪の薬師岳

宝来島と続くところは地層のように横縞が出来ていて、その両脇の水面には、さざ波が柔らかい音を立てて寄せていました。ダムから眺め見た時と違って、近くに来て見ると、南西に長くのびた大きな山でした。また、びっくりです。足元の土が少しぬかっている所もありました。大小の木の切り株が突き出したり、倒れたままだったりもしています。これからの冬にまだまだもう少し水が引いて、そして来年には水位

がもどって、元の浮島の姿にもどるのかなあと思いました。

この陸つづきの土地の麓あたりに有峰の人達が長い長い間生活していたということを見ると、感激でした。島を覆う雑木林から鳥が飛び立っていきました。ああ、鳥はどこにでも行き来できるのだなあとなり前のことに感心しました。

周囲は晩秋の景色でした。遠くに横長の体を雪で真っ白にした薬師岳が顔を見せていました。



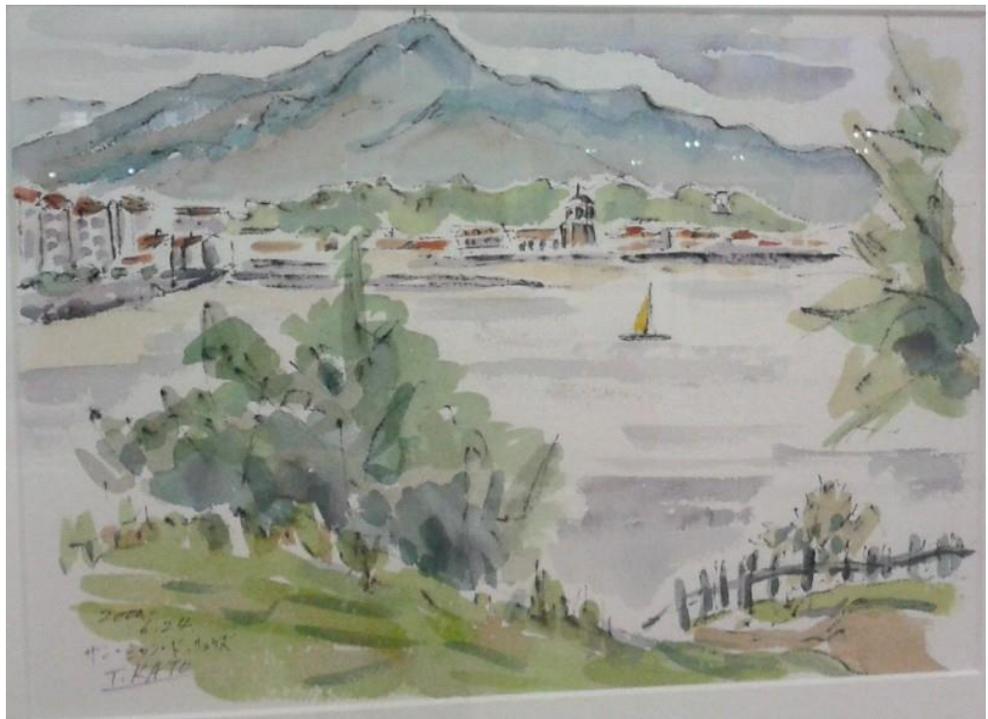
宝来島の頂近くにある有峰神社。毎秋10月に鎮座祭が行われる。参列者は北陸電力の船でここに移動する。

3.3 美術作品

NHK富山局1階のギャラリーにて。会期 2016年1月20日(水)が最終日
中学校時代の美術仲間の展覧会とのことです。編者が撮影

嘉藤氏制作

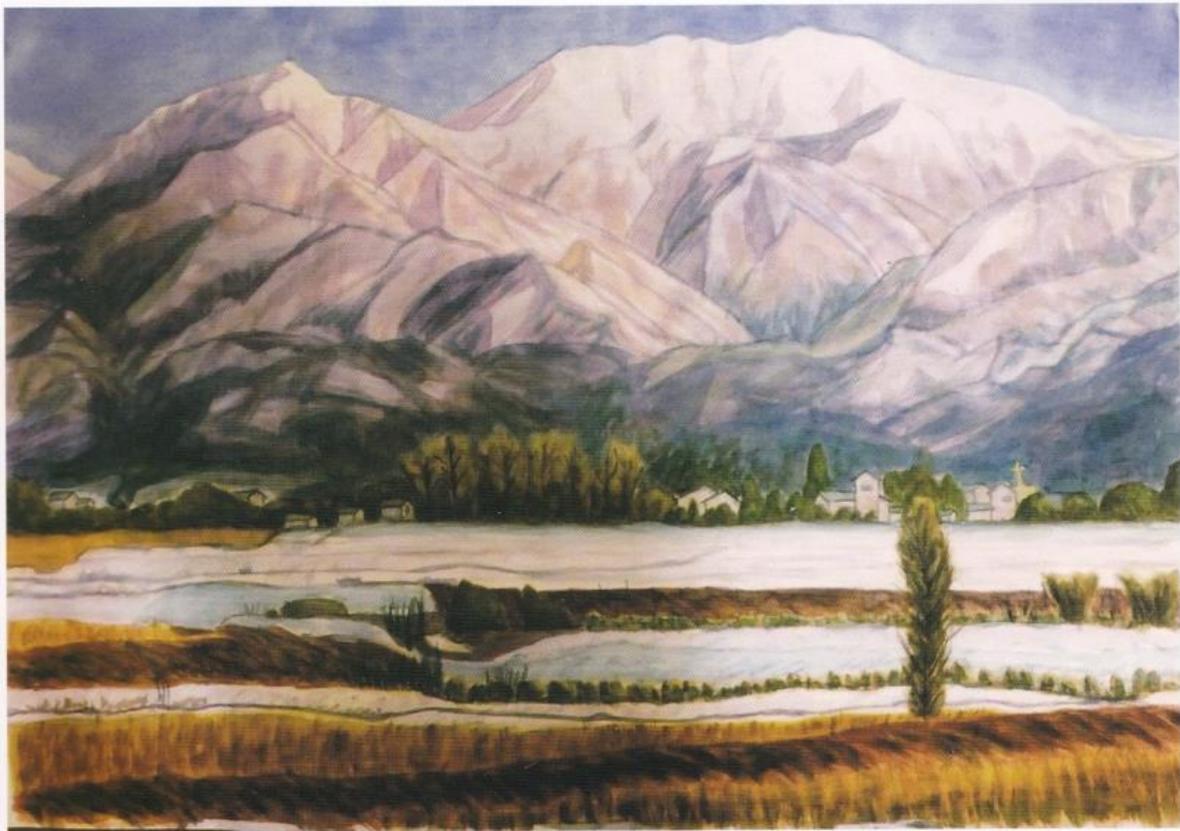




大山の歴史と民俗

第 18 号

2015年3月



大山歴史民俗研究会

5. おわりに

とにかくにも、一年間が過ぎた。振り返ってみると、月一回とはいえ、皆さんと一緒に語りを楽しむことができるのは今の世の中では特筆すべきことと思います。こうして続いているのは皆様のおかげであり、感謝申し上げます。今後とも、この語りを続けていきたいと思います。これをもってまとめといたします。